



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 30

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

丸岡呉服店
昭和10(1935)年頃
三野町

昭和10(1935)年に丸岡呉服店として建てられた。丸岡呉服店は屋号を「ヤマヤ」という。昭和初期のこの地域では珍しい洋風建築である。昭和24(1949)年頃までは呉服店として利用されていたが、昭和25(1950)年からは下高瀬簡易郵便局として利用されている。

「思い出の1ページ」

貴重な建築物を守り、簡易郵便局で50年務めた丸岡益子さん(75)に話を伺いました。

「義父母から聞いた話によると義祖父は建築への関心が高く、当時では珍しい洋風建築の建物を建て、呉服店を始めたそうです。着物は京都から仕入れ、当時、生活着として着用されていたかすりから高級な着物まで幅広く品を揃えていたようです。呉服店があまり多くなかったこともあり、着物を買いに来たり、建物を見に来たりと、たくさんの方が訪れていました。遠くから来る人も多くて、皆さんにお腹いっぱいになって帰ってもらおうと、おむすびやお茶を用意して振る舞っていました。今、世界からも評価されている『おもてなし』ですよ」

呉服店から簡易郵便局になってからも、地域のシンボルの一つとして愛されてきました。取材した日にも遠方から訪れる人がいました。

平成11年6月7日には、国の登録有形文化財に指定されます。「建物の保全を行っていくだけでも正直大変なところはあります。地震が起きた時の心配も。」

この建物は中央に吹き抜けのギヤラリーがあり、大きな天窓からは自然の光が部屋の隅々まで届きます。ここで郵便業務を行ってきたけど、集いの場でもあるんですよ。たくさんの方が来ることができました。今の自分、人と出会って、そのつながりの中で生きていくんだなって思います。それも全てこの建物があるからこそ。守っていくための苦勞なんて吹っ飛びますよ」

今も現役で働く文化財には、地元の皆さんの笑顔がたくさん詰まっています。



編集 後記

「認知症の人のために私たちが認めることができるって何だろう。あれやこれや、特別なことばかり考えてしまっただけには何もできないやー」って思っています。でも、皆さんの話を聞くと、病気についてきちんと理解し、さりげなく自然に接することが大事なんだということが分かりました。私にもできるかな？」